貴重性評価の区分（カテゴリー）

〈選定基準〉

○　影響の人為性（人為により大きな影響を受けている）

・個体数激減

…生息環境、繁殖環境の激変により、個体数が近年激減している

※1970 年代の生息状況と比較の上決定する。ただし、データがある場合は、1970 年以前の生息状況と比較する。

・分布域激減(消失または攪乱を含む)

…生息環境、繁殖環境の激変により、その分布域が近年激減している

※生息環境面積の減少、生息環境の攪乱など生息環境が受ける人為的な影響の視点で検討する

(例)　砂浜を繁殖場所とするチドリ類などについて、繁殖期と潮干狩りで人間が砂浜に立ち入る季節が一致するので、繁殖環境となる場所は実質的な面積より小さい　→分布域減少

・餌の可用性の低下

…近年、餌となる野生動植物の著しい減少や、有害物質の蓄積などにより、餌の可用性が低下している

・特殊競争圧

…外来種等人為的導入によって増加している生物と生息環境が重複し、競争関係にあるため、個体数が近年激減している、または今後激減するおそれがある

・特殊捕食圧

…外来種等人為的導入によって増加している生物による捕食のため、個体数が近年激減している

○　生態の脆弱性(特殊性)

・特殊繁殖環境

…特殊な営巣場所、繁殖期間中の限定された採餌環境など、特殊な繁殖環境を必要とする

・特殊採餌環境

…特定の動物など、餌の種類が限られている

・特殊休息・ねぐら環境
…わずかな面積しかない環境又は開発による影響を受けやすい環境など、休息・ねぐら環境として特殊な環境を必要とする

○　学術上の希少性
・局地的繁殖…繁殖地が極限している

・分布上の希少性
…兵庫県の枠を越えた広域的な生息分布からみて希少である

〈貴重性評価の区分〉

2003 年版レッドデータブックの貴重性の評価区分(カテゴリー)を踏襲しつつ、一部変更を加えた。鳥類については、基本的に 2003 年版と同じ評価区分を踏襲するが、「今見られない」というカテゴリーは、環境省のレッドデータブックに合わせて「絶滅」とした。2003 年版で用いていた「地域限定貴重種(兵庫県全域で見ると貴重とはいえないが、兵庫県内の特定の地域においては A、B、C、要注目のいずれかのランクに該当する程度の貴重性を有する種)」のカテゴリーについては、生息範囲の広い鳥類については該当種がいないと判断し、項目そのものを削除することとした。

①絶滅・・・・兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生息していたと考えられるが、現在は野生下では見られなくなり、生息の可能性がないと考えられる種。

②A ランク・・環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に相当。兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種。

③B ランク・・環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に相当。兵庫県内において絶滅の危機が増大している種など、極力生息環境などの保全が必要な種。

④C ランク・・環境省レッドデータブックの準絶滅危惧に相当。兵庫県内において存続基盤が脆弱な種。

⑤要注目・・・最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種や分布や行動に変化があり動向が注目される種などの貴重種に準ずる種

⑥要調査・・・環境省レッドデータブックの情報不足に相当。兵庫県内での生息の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種。

〈定量的評価〉

評価方法としては、近畿地区鳥類レッドデータブック（京都大学出版会 2002 年 3 月 25 日発行）を参考に、今回の選定基準に基づく定量評価方法を確立し、各種、個体群ごとに選定・評価を行った。

①　選定基準項目の定量評価

選定基準の 11 小項目について下表評価基準に基づき、各委員が定量評価を行い、カテゴリー評価値を記入する。

表１　選定基準定量評価

選定基準			カテゴリー評価値				
大項目	**小項目**		**0**	**1**	**2**	**3**	**4**
生息個体数	生息個体数	①	0	50 未満	50 以上 100 未満	100 以上 500 未満	500 以上
影響の人為性	個体数激減	②	－	過去と比較して急減し、現在も減少	過去と比較して急減しているが、現在は増減なし	過去と比較して減少しているが、現在は増減なし	過去と比較して減少しているが、現在は増加傾向
	分布域激減(消失または攪乱を含む)	③	－	過去と比較して急減し、現在も減少	過去と比較して急減しているが、現在は増減なし	過去と比較して減少しているが、現在は増減なし	過去と比較して減少しているが、現在は増加傾向
	餌の可用性の低下	④	－	過去と比較して大きく低下し、現在も低下	過去と比較して大きく低下しているが、現在は変化なし	過去と比較して低下しているが、現在は変化なし	過去と比較して低下しているが、現在は上昇傾向
	特殊競争圧	⑤	－	極めて大きい	大きい	あり	なし
	特殊捕食圧	⑥	－	極めて大きい	大きい	あり	なし
生態の脆弱性(特殊性)	特殊繁殖環境	⑦	－	特殊性が極めて大きい	特殊性が大きい、または特殊性がある	特殊性は普通	特殊性がない
	特殊採餌環境	⑧	－	特殊性が極めて大きい	特殊性が大きい、または特殊性がある	特殊性は普通	特殊性がない
	特殊休息・ねぐら環境	⑨	－	特殊性が極めて大きい	特殊性が大きい、または特殊性がある	特殊性は普通	特殊性がない
学術上の希少性	局地的繁殖	⑩	－	極めて局地的	局地的	普通	局地性はない
	分布上の希少性	⑪	－	極めて希少	希少	普通	希少性はない

②　代表カテゴリー値の決定

各委員記入のカテゴリー評価値を以下の基準に基づき代表カテゴリー値を決定する。

【決定の基準】

・各委員の評価値で最も多いカテゴリー評価値を採用する
・最も多いカテゴリー評価値が複数ある場合は、その中間値を採用する
・評価対象種の生息情報については、各委員所有のデータおよび巻末に記載した参考文献の他、「日本野鳥の会ひょうご」から提供いただいた約 9 万件におよぶデータを参考とする

代表カテゴリー値の決定の例

各委員のカテゴリー評価値 (左から委員 A、委員 B…の評価値)	代表カテゴリー値	決定方法
322122	2	最多の 2 を採用
2123-3(-:評価なし)	2.5	最多 2 と 3 の中間値を採用
3-2--1	2	中間値 2 を採用
-----1	1	1 を採用

③　項目ごとのポイントの算出・積算

選定基準の小項目①～⑪について、下表(小項目ポイント配点)に基づき、代表カテゴリー値より小項目ポイントをそれぞれ求める。また、次ページ表(大項目ポイント配点)に基づき、大項目ポイントを求める。

表２　小項目ポイント配点

	大項目	小項目		代表カテゴリー値→	0	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
項目ごとの小項目ポイント	生息個体数	生息個体数	①	繁殖個体群	0	1	-	2	-	3	-	4
				越冬個体群	0	1	-	2	-	3	-	4
				通過個体群	0	1	-	2	-	3	-	4
	影響の人為性	個体数激減	②		-	1	1.5	2	2.5	3	5.5	8
		分布域激減	③		-	1	1.5	2	2.5	3	5.5	8
		餌の可用性の低下	④		-	1	1.5	2	2.5	3	5.5	8
		特殊競争圧	⑤		-	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
		特殊捕食圧	⑥		-	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
	生態の脆弱性(特殊性)	特殊繁殖環境	⑦		-	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
		特殊採餌環境	⑧		-	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
		特殊休息・ねぐら環境	⑨		-	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
	学術上の希少性	局地的繁殖	⑩		-	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
		分布上の希少性	⑪		-	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4

表３　大項目ポイント配点

大項目	大項目ポイント
生息個体数	a:　小項目ポイント①
影響の人為性	b:　小項目ポイント②～⑥の平均値
生態の脆弱性(特殊性)	c:　小項目ポイント⑦～⑨の平均値
学術上の希少性	d:　小項目ポイント⑩～⑪の平均値

④　総合ポイントの算出とランクの決定

大項目ポイントを掛け合わせて総合ポイント(T)を算出し、下表基準に基づきランクの決定を行う。

各種代表ランクについては、兵庫県において最も重要である個体群のランクを採用する。ただし、兵庫県において最も重要である個体群のランクが絶滅(Ex)となり、その他の個体群の生息が確認される種については、種代表ランクをＡランクとする。

総合ポイント：　Ｔ＝ａ × ｂ × ｃ × ｄ

表４　ランク選定基準

Ｔ	ランク
0	Ex
0 より上で 10 以下	A
10 より上で 20 以下	B
20 より上で 40 以下	C
40 を上回る	－(ランク外)